

大学間連携を通じた ジェンダー平等・性の多様性理解促進

応募者： 聖心女子大学グローバル共生研究所
青山学院大学スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター



取り組み概要

聖心女子大学グローバル共生研究所と青山学院大学スクーンメーカー記念ジェンダー研究センターは、ジェンダーやセクシュアリティに関する大学独自の取り組みを行いつつ、様々な場において連携しています。

【聖心女子大学グローバル共生研究所の取り組み】

- ・ 全1年次生が一斉に集う準正課科目ジェネラルレクチャーにて、青山学院大学スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター教員を講師に迎えたジェンダー平等・性の多様性理解促進のための講話
- ・ 「にじいろコミュニティスペース@聖心女子大学」の実施
- ・ 「学生企画版にじいろコミュニティスペース@聖心女子大学」の実施(他大学との交流、ジェンダー平等・性の多様性理解促進のグッズ作成ワークショップ、映画上映会等)
- ・ 「女性」をテーマにした展示(およびワークショップ)の実施
- ・ ジェンダーやLGBTQに関連する書籍を読み自由に感想を述べ合う「にじいろ読書カフェ」の実施

【青山学院大学スクーンメーカー記念ジェンダー研究センターの取り組み】

- ・ 来場者同士で気軽に相談できたりおしゃべりが楽しめる場として、学生企画による「もやもやカフェ」を実施
- ・ あらゆるアイデンティティが尊重される場として学生同士、センタースタッフと自由におしゃべりできる「コミュニティスペース」を実施
- ・ ジェンダーやLGBTQに関連する書籍を読み自由に感想を述べ合う「にじいろ読書カフェ」の実施

参考リンク

[聖心女子大学グローバル共生研究所](#)

[青山学院大学スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター](#)

取り組みの背景

LGBTQ+の権利保護をめぐるバックラッシュが巻き起こる昨今、あらゆる属性やアイデンティティを持つ学生がより安心・安全なキャンパスライフを送れるように環境を整備することが喫緊の課題となっています。そのためには学生や教職員のSOGIEに関する理解の促進やLGBTQ+当事者やアライの学生がより安心して交流し、関係性やコミュニティを形成できる機会が不可欠であると考えています。

その取り組みの一つとして、聖心女子大学グローバル共生研究所では、「にじいろコミュニティスペース@聖心女子大学」を開催し、さらに、2023年度のジェネラルレクチャーにて、青山学院大学スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター教員を講師として招聘し、ジェンダー平等・性の多様性理解促進をテーマにした講演をしていただきました。

また、東京レインボープライド2023(以降、TRP)では複数の大学を含めた共同ブースの運営が決定し、各機関の担当者同士が挨拶を行ったことを契機として、互いの機関がどのような取り組みをどのような体制で行っているか情報交換を行いました。青山学院大学ジェンダー研究センターに前記の聖心女子大学グローバル共生研究所兼任所員の教育学科教員が訪問し、それに呼応するように、青学ジェンダー研究センターの教員も聖心女子大学グローバル共生研究所を訪問し、取り組みについての情報交換を行いました。

その後、実施されたTRP、にじいろ読書カフェ、にじいろコミュニティスペース等においても、互いに情報交換を行い、各機関主催のイベントの告知を相手機関においても行い、参加できる範囲で互いのイベントに参加することを重ねてきました。そして、聖心女子大学の2023年度ジェネラルレクチャーにて、青学ジェンダー研究センター教員を講師として招聘し、ジェンダー平等・性の多様性理解促進をテーマにした講演を実施しました。TRP2024においても参画大学増やして共同ブースの出展を行い、連携をますます充実させてきている。

特色および効果

【相互の連携によりさらなる強化・発展(シナジー)が期待できる共通の特色】

- ・「当事者とアライ」「多様な学年」といった多様な構成員による学生コミュニティの形成
- ・多様な学年の学生が参加することによる世代間継承
- ・オンラインと対面を組み合わせたブレンド型の学習や企画
- ・大学間連携によるリソースの有効活用、ノウハウの相互活用、学生同士の交流の活性化
- ・取り組み(居場所づくりと理解促進)の線化・面化による、渋谷区全体の心理的安全への貢献
- ・学生だけでなく教職員も参加者の対象とすることによる、教職員による理解促進や教職員の居場所づくりへの貢献
- ・大学関係者も参加者の対象とすることで実現する、広い範囲での参加者募集と一定のリスクヘッジ

【効果】

- ・双方が各大学主催のジェンダー平等・性の多様性に関する諸イベントに参加し、イベント開催のノウハウの学習やジェンダー平等・性の多様性の理解が促進された。
- ・TRPへの出展を機に他大学の教職員と交流し、情報交換する機会を得た。また、TRPにボランティア学生が参加することで他大学の学生と交流し、新たな知識を得たり仲間を作ったりする機会を得た。
- ・今後も連帯してゆき、ゆくゆくは合同イベントの企画・開催や、より密な互いの学生同士の交流の促進などを行っていきたい。それにより、互いの学生・教職員がより活発に交流し合うことで、さらなるジェンダー平等・性の多様性理解の促進が期待できる。